

一〇二二年四月一日

暖かやパン生地並ぶ窓辺かな
振り向けば山遠くなる潮干狩
旅の地図ひろげ見るだけなる日永
踏切の警報ひびく花菜畑
満開の河津桜に雨無慈悲
銀色の雨滴をとどむ木の芽晴
爪を噛む癖なくなりて卒園す
嘴の揃ふ巣燕道の駅
春耕の腰を伸ばせり桐大樹
ひとところ芽吹きの著し雜木山
囁りをこぼしやまざる大樹かな
芽柳のそよぐ川辺を吟行す
遡る汐入川の残り鳴
むべ
宏虎
わかば
よう子
はく子
はく子
なつき
なつき
愛正
素秀
凡士
素秀
こすもす
なつき